



関口秀雄氏

(株)旅館ランドリー 専務取締役

川崎市に本社を構え、レジャーホテルをはじめ各種宿泊施設にリネン類を提供する(株)旅館ランドリー。創業50年の歴史とともに培われたノウハウを武器に、取引先のニーズに柔軟に対応することで、多くの信頼を獲得している。2017年10月、現社長関口晴雄氏の息子である関口秀雄氏が専務取締役に就任した。会社の後継者であり、新たな歴史の担い手として期待を集める関口専務に、事業に対する考え方やレジャーホテル業界への思い、ご家族などについて話を伺った。

▶ アパレル業界から家業に入り
いまは後継者として勉強の日々

—会社設立は1968年ですが、創業はさらにさかのぼって大正時代と、長い歴史をもっていますね。

関口 もともとは1923(大正12)年に東京・世田谷区で寝具類の販売業としてスタートし、1947年に(株)玉川繊維工業所が設立されました。その後、同社内にホテルや旅館のリネンサプライを専門に扱う旅館ランドリー部門が設けられ、1968年1月に株式会社として独立・分社化しました。玉川繊維工業所はもともと東京都世田谷区に会社を構えています。

—現在の貴社の事業規模は。

関口 本社のある川崎市のほかに横須賀市と町田市に事業所を構え、約400件の宿泊施設と取引をさせていただいており、うちレジャーホテルが8割を占めています。社員は現在30~40人程度ですが、アルバイトなども含めると300~400人くらいが働いています。

—関口専務の入社はいつですか。

関口 10年前の2008年11月です。実は、それまでこの会社に入るつもりはありませんでした。昔から服飾関係に興味があり、専門学校卒業後に大手のアパレル会社に就職し、販売員などを経験しました。4年勤務して退社し、別の勤務先を探していたところ、社長である父から「人手が足りないから会社を手伝ってくれな

いか」と相談されたのです。

社長は生来寡黙な人で、親子で話をすることは決して多くありませんでした。私が本当に困ったり悩んでいるときだけアドバイスをくれましたが、それ以外は社長の背中を見ながら育ちました。

そのため、社長からそうやって相談を受けたのは初めての経験で驚きましたが、「それだけ困っているのだろう」と考え、社員として入社することにしました。—当時はまだ後継者になる話が出ていなかったのですか。

関口 はい。私も当初は社長を継ぐつもりはまったくなく、一社員として働いていました。周囲のベテラン社員たちは最初は「社長の息子」ということで気を使ってくれていたようですが、すぐに打ち解けてくれました。

その後、工場作業から営業まで、会社の業務をひと通り経験することになりました。近年では社長と経営に関する話もするようになり、徐々に私も後継を意識するようになりました。

—専務に就任して、以前と変わったことはありますか。

関口 まだあまりないですね。社長は、まず私に役職を与えて、自覚をもたせてから、後継者としてじっくり育てていくつもりなのだと思います。最近ようやく経営に関する資料などを見せてもらうようになり、これからさらに経営について勉強していくことになります。

▶ 会社の業績がアップするなかで
人材確保が大きな課題

—近年、宿泊業界は活況を呈していますが、それを実感することはありますか。

関口 弊社が請け負うボリュームが、近年、明らかにふえてきています。特にクリスマスなどのイベント月や年末年始は忙しいですね。弊社にとっては嬉しい悲鳴です。

—“悲鳴”というとは？

関口 他の業態と同様、人材不足が顕著になってきています。繁忙期は派遣スタッフの手も借りて、なんとか回している状態です。

弊社が取引させていただいているホテルや旅館は、基本的に1年365日、毎日営業していますから、私どもも取引先に合わせて365日の業務体制をとらなければいけません。また、工場作業も配送もハードワークなので、なかなか人材確保がむずかしいのが現状です。

ただ、昔はもっとすごかったという話も聞きます。年末なのに工場作業が終わらず、従業員みんなで除夜の鐘を聞きながら作業をしたこともあったようです。私が入社したころも、たまに深夜作業がありました。

もちろん、いまは労務管理をしっかり行ない、休日もきちんととらせるようにしています。

—将来的な人材確保について、どうお

レジャーホテル業界とは共存共栄 困難な時代をなんとか生き抜いていきたい



1984年11月20日生まれ。専門学校卒業後、大手アパレル会社に就職し、店頭販売などの業務に携わる。2008年11月に旅館ランドリー入社。2017年10月、専務取締役に就任。

会社名/ (株)旅館ランドリー
本社/ 川崎市幸区北加瀬3-21-10
代表者/ 関口晴雄
設立/ 1968年1月
業務内容/ リネンサプライ、寝具類販売・リース、ユニフォーム販売・レンタル、ダストコントロール、インテリア用品販売
U R L/ <http://r-laundrygroup.com/>

考えですか。

関口 女性やシルバー人材を上手に活用できればいいのですが、男性にしか任せられないような力仕事も多いので、人材配置を工夫しなければいけないでしょうね。

もう一つの方向性がオートメーション化、省人化です。究極の理想は、工場では機械がすべての作業を行ない、人間は管理するだけという状態。これなら年齢や性別に関係なく人材配置ができますから。ただ、リネンというのは非常にニッチな産業なので、なかなかオートメーション化が進みません。今後の技術の進歩に期待したいところです。

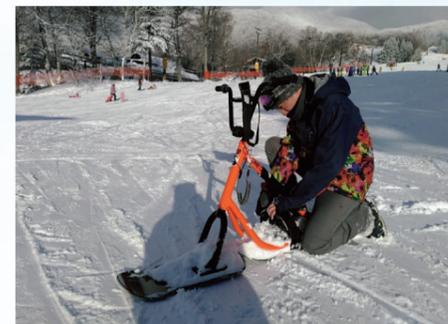
▶ プライベート旅行でリネンをチェック
“清潔感と快適さ”へのこだわりを実感

—ご結婚はしていますか。

関口 29歳で結婚しました。相手は私と同じ年。友達との飲み会の席に、たまたま同席したのがきっかけで付合うようになりました。

まだ子どもはいないのですが、私の姉に子どもが4人いるのに影響を受けて、そろそろうちもと考えています。社長が姉の子どもを見ているとき、とても嬉しそう顔をするので、自分の子も早く見せてあげたいですね。

もともと時間が不規則な仕事なので、「自分と結婚しても普通の生活はできないかもしれないよ」と伝えていました。



夫人との共通の趣味であるスノーボード。シーズン中は年7~8回スキー場に通っている



でも休日はできるだけしっかりとって、夫婦の時間を確保するようにしています。—休日はどう過ごしているのですか。

関口 夫婦共通の趣味がスノーボードなので、シーズン中は年に7~8回くらい、一緒にスノーボードを楽しみます。よく行くのは群馬県にある「ホワイトワールド尾瀬岩鞍」。雪質がよく、日帰りで行ける距離なので、朝9時くらいに家を出発して昼に現地に着、昼食をとってから夕方まで滑り、夜帰宅するパターンが多いです。

—スキーシーズン以外の休日は。

関口 夫婦で旅行に行くことが多いです。事前に予約して、温泉旅館からホテルまで、いろいろなタイプや価格帯の宿泊施設に泊まります。

チェックインして部屋に入ったら、真っ先にタオルやシーツをチェックします(笑)。嫁さんには「職業病だね」と言われていますが、そこから仕事のヒントを得ることも少なくありません。

—そうやってご自身で現地調査を実践して、昨今の宿泊業界の傾向などは感じ

られますか。

関口 最近ほどの旅館やホテルでも“清潔感と快適さ”にかなりこだわっていますが、それをどう表現するかで個性が出ているような気がします。たとえばシーツやタオルなどのリネン類で清潔感を訴求するホテルもあれば、照明や家具などの空間演出で快適さを表現するホテルもあります。

昨今は民泊などさまざまな形態の宿泊施設が登場して、既存の宿泊施設は危機感をもっているという話を耳にします。でも利用する立場でみると、そうした“清潔さ快適さ”へのこだわりを徹底することで、他の宿泊施設には真似のできない魅力が生まれ、レジャーホテル業界の更なる活性化につながるのではないかと考えています。

私たちリネン事業者はホテル業界あってこそその業種になります。これからもホテル業界の皆様への感謝を忘れず、共に困難な時代を生き抜いていきたいと考えております。

—本日はありがとうございました。